

大井町の工場
半導体製造装置のホコリ吸着
金星コム、低価格を実現

自社製品売上比率50%に

グローバル・アドバンス セキュリティシステム投入

【千葉】グローバル・アドバンス(東京都中央区、大野和人社長、03・5543・3682)は、受託事業中心の体制を見直して、自社製品の販売に乗り出す。開発を続けてきたセキュリティシステムへの引き合いが増え、本格的に市場投入する。国内販売代理店7・8社と契約するほか、今後、韓国にも拡販する方針。将来的には、自社製品販売事業の売上比率を50%にまで伸ばして収益力を高める。

グローバル・アドバンスが提供するのは、入室管理とパソコン(PC)のログインを連動したセキュリティシステム。集積回路(IC)カードに個人情報と位置情報を読み込ませ、ユーザーが

この部屋に入ったかを管理する。指定された部屋を通らねば、PCがログインできない仕組み。PC内のファイルの使用履歴はサーバで管理され、情報漏えい防止に役立つ。

研究所から引き合いが来っており、年内にも納入予定。販売代理店を通して国内外に拡販する。代理店が扱いやすいよう

に、初期設定の操作を簡単にした。顧客のニーズに合った画面などを簡単に設定できる。あわせてアプリケーション・サーバー・プロバイダー(A SP)での提供を年内にも始める。

同社は04年設立のIT関連ベンチャーで、08年12月期の売上高は1億3000万円。セキュリティ分野でのネットワー

ク構築に強みを持ち、設計受託事業を主力としてきた。

「自社技術確立し、ニーズある製品が提供できる体制になった」(大野社長)ことから、自社製品販売事業に力を入れる。

お客さまはこの接点がある

お客さまへのサービス